

## 第5回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会報告

## 1. 日 時

平成17年10月7日(金) 15時00分～16時10分

## 2. 場 所

塩谷広域行政事務組合 1階大会議室

## 3. 出席者

職 名	氏 名
委員長	(学識経験者) 西谷弘子
副委員長	( さくら市 ) 菊池崇雄(欠席)
委員	( 矢板市 ) 長谷川健 小松高行
	( さくら市 ) 関 忠司(欠席) 天野順子 蛭田幸子
	( 塩谷町 ) 松尾享子 立岡芳司
	( 高根沢町 ) 飯泉八重子 君島 毅
	(地元住民代表) 高塩克敏 岡田 明
	(学識経験者) 小久保行雄
	(アドバイザー) 今泉繁良 中村祐司
職員	( 矢板市 ) 高瀬主任
	( さくら市 ) 岡本主幹
	( 塩谷町 ) 石井主幹 狩野補佐
	( 高根沢町 ) 鈴木主任主事
事務局	(塩谷広域行政組合) 高久事務局長 阿久津課長 舘脇副主幹 磯室長 小堀主幹 印南係長 片野係長 斉藤主任
	(日本技術開発) 高橋富男 中尾さやか 中山伸吾 宮澤俊介

## 4. 議事次第

1) 開 会

2) あいさつ

3) 第4回ごみ処理検討委員会検討結果報告

4) 議 題

第1回リデュース部会、リユース・リサイクル部会報告

リデュース部会、リユース部会での検討

可燃ごみ処理システムの評価

その他

5) 閉 会

## 5. 主な意見

- ・本委員会は、減量化や焼却処理システムなどを総合的に踏まえ、循環型社会に相応しいシステムの構築について検討していく場である。
- ・評価項目として、地域活性化の視点を加えるべきである。焼却施設の問題ではなく、同時に発生する熱や電気の利用についても検討していくべきである。
- ・焼却施設だけでなく、他にどのような施設が必要なのかを検討するのは、本委員会である。
- ・リサイクルプラザの必要性については、分別の線引きや浸透について検討を行いながら進めていくべきである。
- ・リサイクルプラザの機能面以外の価値として、地域の子供達への関心や人々のリサイクルプラザへの関わり方、リサイクルプラザが開館した時にどれだけの人たちが関わるかなどがある。機能面との両立を考えると、家庭での分別の徹底化がリサイクルプラザのあり方にも密接に関係している。
- ・焼却灰の資源化を私達がどう捉えるかが重要な問題である。市場の考え方が焼却灰の資源化に関わっていくこと、非常に難しくなる。当初のスタンスを確認するべきであり、社会的効率や視点などについては、用意されたものから選択するようなことではない。私達が考えて社会的効率や活性化について、しっかりとした項目立てをつくることが重要である。
- ・現在のことだけではなく 20 年後を想定して検討を行っていかなくてはならない。
- ・将来を想定する際に、紙類をリサイクルした場合、プラスチック類をリサイクルした場合、生ごみをリサイクルした場合など仮説の資料の提出を依頼する。